

BRIDAL

INDUSTRY

ブライダル産業新聞

NEWSPAPER

発行所：(株)ブライダル産業新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座 8-11-1
TEL 03 (5537) 8531 FAX 03 (5537) 8533 発行人：池田義信 年間購読料 32,400円(消費税込み)
E-mail：info@bridalnews.co.jp

JULY

11

第1023号

全国ブライダル学校リスト

金の卵を養成

メディア掲載で認知度アップ

ブライダル専門学校や短大は、高い専門スキルを持つ人材輩出を目指し、産学連携による特別講座や模擬披露宴、企業研修などをカリキュラムに組み込んでいる。座学では学べない実践的な授業を通じ、今後を担う人材へどのように成長していくのか。人手不足が業界の大きな課題となっている今、各校の取り組みと、全国のブライダル学校一覧を紹介する。



▲現場のプロからサービスを学ぶ(専門学校日本ホテルスクール)

プルもすでにいるという。この取り組みは、山陽新聞にも取り上げられた。

こうした取り組みは地元メディアからの注目も高い。高知情報ビジネス&フード専門学校(高知市北本町)は、7月4日、ブライダルを学ぶ2年生5名が、校内で模擬挙式を実施。音響から司会まで、全ての役割を5名で担当した。テレビ高知が挙式の様子を放送し、その後Yahoo!ニュースを通じて全国配信された。

同校は、イベントや目玉企画の際にはメディア向けプレスリリースを必ず配



▲倉敷帆布を用いた衣裳(岡山ファッションスクール)

信。こうした地道な取り組みがテレビ放送に繋がり、学生のやる気に火をつけている。メディアに取り上げられることで、学校の認知度アップや、入学検討者の増加に繋がる可能性も。ブライダルを志望する学生を増やしていくことが、結果として業界の人材不足解消のパワーになる。

前準備の様子が地元ラジオに取り上げられるなど、学生も意気込みを見せている。

服飾専門学校・岡山ファッションスクール(岡山市北区)は、産学連携の試みとして、地元の帆布メーカー・タケヤリと、倉敷帆布でドレスとタキシードを制作した。「倉敷ならではの衣裳で式を挙げてほしい」という企業側の想いから、学校に共同制作を依頼。2016年に初コラボに至った。

第1弾の衣裳はサイズが小さめだったことから、より多くの人に着用してほしいと、再度タッグを組んで制作。ファッションテクニカルコースに3月まで在籍していた学生2名が、卒業制作として発表した。衣裳は倉敷国際ホテルに提供し、結婚式で着用したカッ

ブライダル企業への就職、その後の活躍を目指し、各学校は様々なカリキュラムを用意している。

富山情報ビジネス専門学校(富山県射水市)のホテル・ブライダル学科の学生は、10月21日、庄川峡観光協同組合と連携し、砺波市内の庄川水記念公園「鯉恋の宮」で結婚式を開催する。7月末までカップルを募集している。

毎年実施してきたカップルの結婚式プロデュースだが、初の試みとして同組合とコラボ。学生と一緒に町を活性化、PRに繋がりたいという組合の意向から、企画に至った。学生にとっても、団体との連携を通じ、期日の徹底や事前の資料作成、随時結果報告など、多くを学ぶ機会となっている。事

横浜fカレッジ

横浜fカレッジ(横浜市西区)は、8月8日、横浜そごう・新都市ホールにて、「ヨコハマウエディング ベストファミリー・クイーン・プリンセスコンテスト 2018」の最終審



▲応募受付は7月20日まで

査会を開催する。

過去9年間、毎年夏に高校生が思い描く理想の花嫁を発表する「高校生ウエディングコンテスト」を開催してきた同校。全国的な婚礼施行組数の減少などの背景から、学校としても結婚式の魅力喚起により繋げていきたいと考え、10回目を迎える今年、内容を一新した。

神奈川県在住や、県内のホテルで式を挙げた夫婦、将来県内で式を挙げたい学生など、12歳以上であれば年齢制限なしと、対象を拡大。幸せな生活を送る「ベストファミリー」、結婚式を夢見る



ブライダル学科リーダー
松本みづほ氏

「クイーン」、素敵な恋に憧れる「プリンセス」を選出する。

「応募受付は7月20日まで。母校である高校を訪ねポスターを設置した

ウエディングコンテスト開催

り、専用のSNSアカウントを作成し告知するなど、学生が主体となり集客を進めています。7月4日現在、17組がエントリーしています。」(ブライダル学科 学科リーダー・松本みづほ氏)

応募は専用ホームページのフォーマットから。横浜が好きな理由やドレスへの憧れなどを記載する。予選、最終審査を勝ち抜いた各部門の優勝者には、今後イベントなどに参加し、横浜と結婚式の魅力をPRする役割も担ってもらうという。

「最終審査会当日は200

着のドレスを用意し、学生

がモデルを務めるショーステージも実施します。昨年の来場者は1300名。たくさんの人たちにウエディングの素晴らしさを伝えられるよう、ステージの構成も学生達で企画しています。」(松本氏)

学生の力を活かして町を活性化

地元企業や観光組合とのコラボレーションで学びの環境を充実させる